

# 坊っちゃん先生 ゆかりの地 MAP

— 旧熊谷中学校と旧居跡周辺の名所をめぐる — 【埼玉県熊谷市編】



ひろなかまたいち  
**弘中又一** (1873-1938)

夏目漱石の小説『坊っちゃん』の主人公のモデルとされる弘中は、漱石との出会いの場でもある愛媛県の松山中学校を経て、その後、熊谷に赴任しました。明治33年から大正8年(1900-1919年)熊谷中学校(現・熊谷高校)の数学教師として教鞭を執り、熊谷の地で約19年間を過ごしています。



埼玉県熊谷市 市街地MAP

**1 埼玉県立熊谷高等学校 (旧埼玉県立熊谷中学校)**  
明治28年(1895年)埼玉県第二尋常中学校として創始された。「質実剛健」「文武両道」「自由と自治」を校訓とする伝統男子校で、著名人を多く輩出している。弘中など名教師の伝説も数多い。(熊谷市大原 1-9-1)

**2 熊谷聖パウロ教会**  
大正8年(1919年)に日本聖公会教会として建設されたレンガ造りの礼拝堂。聖壇や屋内天井のハンマービーム構造などが近代建築の粋と温かみを醸し出す。熊谷を代表するモダン建築である。(熊谷市宮町 1-139)

**3 熊谷奴伊奈利神社(くまがやっこいなりじんじや)**  
熊谷次郎直実の守護神(弥三左衛門稲荷)として、元久2年(1205年)熊谷次郎直実の邸内に創建されたと伝わる。江戸時代の絵師・歌川豊国の錦絵「子育て稲荷」に描かれ広く知られた。(熊谷市仲町 43)

**4 高城神社(たかぎじんじや)**  
平安時代の『延喜式神名帳』に記される「式内社」の古社と伝わる。江戸時代には忍藩主の保護を受け、熊谷宿の総鎮守と称えられた。四季の祭礼行事を通じて多くの信仰を集める。(熊谷市宮町 2-93)

**5 陣屋跡・明石家長屋門(じんやあと・あかしながやもん)**  
陣屋跡は江戸時代に熊谷宿が属した忍藩の陣屋跡地で、郡代などが街道宿場の事務を行った。後に熊谷町役場が建設された。北側にある明石家長屋門は、弘中の記憶を偲ばせている。(熊谷市本町 1-18、宮町 1-164 付近)

**6 千形神社(ちかたじんじや)**  
平安時代末期、熊谷次郎直実によって創建されたとも伝えられる古社。直実の父、直貞が熊を退治した伝説と関連し、血形神社から名称が転じたとされる。後に奉納相撲も盛んになった。(熊谷市本町 1-18)

**7 漱石の『坊っちゃん』先生旧居跡**  
熊谷中学在職中の弘中が、約10年間、家族と共に生活していた住居跡地。現在、家屋は解体されたが、当時を懐かしむ説明板が設置され、「坊っちゃん」先生の生涯を今に伝えている。(熊谷市宮町 1-166 付近)

**8 熊野堂(くまんどう)**  
熊谷次郎直実の父・直貞が、当時この地に出没していた熊を退治してその首を埋め、そこにお堂を建てたと伝えられている。現在は、大正2年(1913年)に建立された石碑が昔の由来を伝えている。(熊谷市宮町 1-13)

**9 熊谷寺(ゆうこくじ)**  
熊谷次郎直実が出家し蓮生法師として草庵を設けた地に開基された浄土宗寺院。直実・蓮生の墓地を有するほか、総樫入母屋造りの大伽藍は荘厳。「熊谷」の音読みが寺院名となった。(通常非公開)(熊谷市仲町 43)

**10 宮沢賢治歌碑**  
大正5年(1916年)、宮沢賢治が秩父に向かう途中、熊谷に宿泊した際に詠んだ、「熊谷の蓮生坊がたてし碑の旅はるばると涙あふれぬ」「武蔵の国熊谷宿に蠅座の淡々ひかりぬ九月の二日」の2つの歌が旧中山道沿いの石碑に刻まれている。(熊谷市仲町 74)

**11 本陣跡(ほんじんあと)**  
中山道熊谷宿の竹井本陣の跡地。江戸時代後期、宿場代官所を担った2つの本陣の1つであり、国内有数の規模を誇ったと言われる。竹井家が本陣当主を務め、宿場町の中心地を形成した。(熊谷市本町 1丁目)

**12 星溪園(せいけいえん)**  
明治時代初頭に竹井本陣の別邸として竹井澹如が建立した。昭憲皇太后や秩父宮の行幸、洪沢栄一、大隈重信、陸奥宗光など多くの知名士が来訪した。玉の池を囲む庭園美や数寄屋建物が特徴である。(熊谷市鎌倉町 32)

**13 石上寺(せきじょうじ)(旧熊谷桜堤)**  
旧熊谷桜堤に位置する真言宗寺院。旧堤は戦国時代に北条氏が荒川沿いに整備した熊谷堤が原型で、江戸時代以降、桜の名所として名を馳せた。戦後、新堤が造られ、旧堤は石上寺と万平公園に残る。(熊谷市鎌倉町 36)

**14 八木橋百貨店と旧中山道**  
明治30年(1897年)初代・八木橋本太郎が熊谷市仲町に創業した八木橋呉服店を発祥とする百貨店。店舗の1階には、かつての中山道の位置に通路が設置され、その面影を今日に残している。(熊谷市仲町 74)

**15 『戦災者慰霊の女神』(北村西望 作)**  
終戦直前の熊谷空襲で死亡した市民を慰霊するために、昭和50年(1975年)に建立された彫刻像。戦後彫刻界の巨匠・北村西望が制作し、星川彫刻プロムナードの原点となっている。(熊谷市星川 1丁目)

**16 『熊谷次郎直実像』(北村西望 作)**  
熊谷出身の武将・熊谷次郎直実を主題にして彫刻家の北村西望が制作し、昭和49年(1974年)に完成した彫刻像。挙扇する直実像は勇壮で、熊谷駅北口のシンボルとして著名である。(熊谷駅北口ロータリー)

小説『坊っちゃん』  
小説家・夏目漱石による中編小説で、明治39年(1906年)、『ホトトギス』に発表。漱石の松山中学在任当時の体験を背景とした初期の代表作である。数学教師として松山に赴任した情熱的で「坊っちゃん」とあだ名のついた青年が主人公。その彼が偽善的な社会に立ち向かう生き方を、ユーモアに富む筆致で、歯切れよく描いている。漱石の作品中、最も広く愛読されていることで知られ、大衆的要素を開拓した漱石文学の記念碑と評価される。

# 坊っちゃん先生 弘中又一が 生きた熊谷

制作：熊谷市文化遺産研究会

「坊っちゃん」先生MAP制作委員会・ワタリドリプロジェクト

協力：熊谷市教育委員会・埼玉県立熊谷高等学校同窓会

監修・執筆：熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹

夏目漱石の名作『坊っちゃん』。その主人公・坊っちゃん  
のモデルとされ、漱石の友人でもある「弘中又一」は、熊谷  
の地で熊谷中学の数学教師として過ごしました。

愛媛県の松山中学校（現在の愛媛県立松山東高校）に勤務  
していた漱石は、時期を同じくして赴任してきた弘中と早々  
に意気投合し交友を深めます。1年後、2人はそれぞれ松山  
中学校を後にしますが、松山中学校で「ポンチ先生」の愛称  
で慕われた弘中の破天荒な性格とその実話体験をもとに、夏  
目漱石は小説『坊っちゃん』を執筆したのではないかと考え  
られています。

弘中は松山中学校などを経て、明治33年（1900）埼玉県  
尋常中学校第二分校（旧制熊谷中学：現在の熊谷高校）に着  
任しました。明治42年から大正8年までの約19年間を熊谷  
の地に身を置き、熊谷市宮町1丁目（現在のさいたま地方裁  
判所熊谷支部南側）の借家などで家族と共に暮らしました。



前列右から3人目（弘中）

『熊谷高校八十周年誌』には「熊谷中学時代」の随想で弘  
中の「在熊谷19年」の寄稿文が掲載されています。その中  
で弘中は熊谷での生活を「桜と男の熊谷。生涯の最も愉快な  
19年間であった」と振り返っています。この記念誌の多く  
の談話や記事からは、当時の学校生活、弘中の人物像や家族  
についての様子を垣間見ることができます。

熊谷中学時代の弘中は、出席帳のサインに書いていた  
「弘」が「X（エックス）」に見えたことから「エグス」の  
愛称で生徒に慕われていました。「博學で数学はもちろん、  
英語も物理も漢文も歴史も何でも教えてくれた」「弁当を食  
べながら弘中先生を囲んで話を聞くのが楽しみだった」「昼  
食の食パンを火鉢の大半を占領して焼いていた」「学校の帰  
り、桜町あたりでドジョウを買ったが、入れ物が無いので、  
かぶっていた山高帽の中に入れて持ち帰った」「荷車を引  
て歩くのに山高帽にフロックコートをはおって引してい  
た」など数々のエピソードが記されています。トレードマー  
クの山高帽は、松山時代に夏目漱石から贈られたものと言  
われています。

『坊っちゃん』先生の足跡に想いを馳せ、熊谷の市街地を  
散策してみたいはいかがでしょうか。



熊中時代の校舎全景（大正期）



『坊っちゃん』と田舎教師』記念碑  
（熊谷高校・2018年建立）



旧居跡地周辺（宮町）  
北側に裁判所がある



旧居跡に設置された説明板



明治34年第2回卒業記念写真

熊谷中の教師だった弘中（前列右から3人目）と、田山花袋『田舎教師』の主人公、  
林清三のモデルで生徒だった小林秀三（後ろから2列目左から3人目）が一枚の写真  
に納まり、日本近代文学の傑作のモデル2人が同じ時を過ごした歴史を物語る。2018年には、熊谷高校の校舎前に、2人を主題とした『坊っちゃん』と『田舎教師』ここに教えここに学ぶ』の記念碑が建立された。



小林秀三



弘中又一

## 弘中又一 略年譜

- 明治6年（1873） 12月10日、山口県湯野村（現・周南市）で父伊亮、母タメの長男として生まれる。
- 明治23年（1890） 同志社普通学校（現・同志社大学）へ入学。数学と英語の教員免許を取得。
- 明治26年（1893） 12月、山口県柳井小学校高等科の英語代用教員となる。従妹の戸澤タカと結婚。
- 明治27年（1894） 同志社普通学校（現・同志社大学）卒業。
- 明治28年（1895） 愛媛県松山中学校（旧制松山中学、現・愛媛県立松山東高校）へ着任。松山中学では数学と英語教師として、夏目金之助（後の夏目漱石）と職場をともにし交友を深める。
- 明治29年（1896） 4月愛媛県東予分校（現・愛媛県立西条高等学校）に転任。11月東予分校を依願退職。徳島県第二中学校（現・徳島県立富岡西高校）の教諭となる。
- 明治33年（1900） 埼玉県尋常中学校第二分校（旧制熊谷中学、現・熊谷高校）に数学教師として赴任。
- 明治39年（1906） 夏目漱石が『坊っちゃん』をホトトギス4月号に発表。翌年、単行本化され話題を集める。
- 大正8年（1919） 熊谷中学校（現・埼玉県立熊谷高校）を退職。京都の同志社中学校へ赴任。
- 昭和13年（1938） 8月6日、死去。享年66（歳）。



『克』 洗沢栄一揮毫額  
（熊谷高校所蔵）

明治43年（1910）11月6日、洗  
沢栄一は教育に関する講演の  
ため熊谷中学を訪れている。  
講演は約700人が聴講し、弘  
中も参加していたと伝わる。  
洗沢栄一は「克忠克孝」と揮毫  
した書を熊谷中学に残してい  
る。現在は「克」の一文字が表  
装され同校記念館で保存展示  
されている。